



Book Review

評者:柳めぐみ 姫路赤十字看護専門学校 副学校長

脱・しくじりプレゼン

言いたいことを言うと伝わらない!

編著:八幡紕芦史/著:竹本文美、田中雅美、福内史子/本体:2,600円+税

発行:医学書院/TEL:03-3817-5657



41の失敗事例で、「伝え方」スキルを学ぶ

看護基礎教育にかかわる教員は、学生が興味をもって主体的に学べる授業を行いたいと常に考えています。しかし、学生が寝ている、問いかけても反応がない、伝えたいことが理解してもらえないなど、教員たちの悩みはつきません。世代間のギャップもあり、今まで行っていた説明の仕方では通用しないことも多々経験します。たとえば、災害時の備えについて考えてほしいと思い、阪神・淡路大震災を例に出します。災害看護学の発展の契機となった大災害であり、地元で暮らすわれわれには忘れることのできない出来事ですが、学生にとっては、まだ生まれる前の過去のこと、ピンとこないようです。そもそも「災害看護」という専門用語が、入学したばかりの学生には理解できないのかもしれませんが。

効果的な授業を実施するには、伝える内容の精選はもちろん、伝え方、つまりプレゼンスキルが欠かせません。本書は、「医療者とプレゼンのプロが“しくじらない”極意を教えます」とあるとおり、とてもわかりやすくプレゼンテーションについて解説されています。編著者である八幡紕芦史先生は、日本におけるプレゼンテーション分野の第一人者で、企業や官公庁・自治体でのプレゼンテーション教育、大学での講義、多種業界での講演活動、関連書籍や雑誌の執筆とご活躍されています。さらに、本書は医療現場に特化して、現役の医療従事者とともに執筆され

ています。

「準備」「戦略——聞き手分析」「戦略——場所・環境分析」「シナリオの構築」「デリバリー」「双方向のプレゼン」「応用編」の7章に分けて、41の失敗事例がマンガで示してあり、その後、なぜ失敗したのか、どうすればよかったのか、そして最後に教訓としてのまとめが示されています。失敗事例は、受講生としての立場でも、授業者の立場でも身近に思い当たるものばかりで、「あるある～」と共感してしまいます。たとえば、授業のスライドを作成しているうちに、教員主体の構成になり何枚もスライドを追加し、授業は学習者が置いてけぼりになってしまったという失敗の経験は私にもあります。そんな失敗を解決できる具体的なスライド作成、プレゼンの方法など、すぐ役立つ内容が多く含まれています。理論をおさえての解説は学問的なものであり、授業はもちろん、学生とのコミュニケーションにも応用できますし、どこからでも読み始めることができ、親しみやすい表現で書かれています。

本書は看護師向けに書かれた本ではないのですが、看護教員になったばかりの新人期から熟達期まで経験を問わず、また、臨床の場で患者に説明を行う機会の多い看護師にも興味深く役立つ内容となっています。ぜひ本書を手に取り、明日から「脱・しくじりプレゼン」を実践していきましょう。